

(様式1)

学校番号 (小044)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(篠原小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 協議会の取組について理解し、充実した活動につなげたい。
- 委員と教員との交流の場を意図的に設定し、互いの理解を深め、具体策を考えたい。
- 保護者・地域・学校間(幼保こ小中)・職員間での交流の機会を大切にし、学校支援活動をより充実できるよう、情報収集や発信に努め、より理解と協力を広げたい。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- 国や浜松市が目指すところを受け、本校の実態に合わせた経営方針を立てていることを把握し、グランドデザインの説明から、学校が目指していることを理解できた。
- 学校の実態に関する情報の提示後に授業参観をし、学校の目指す姿を子供の表れから見取ることができた。感じたことを意見交換し、更に理解を深めることができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- 昨年度以上に学習ボランティアの活動が充実した。学校が更に近い場所になり、学校が必要としている支援活動への理解が深まった。学習ボランティアの活動を間近に見ると同時に、主体的に活動する児童の様子にも気づき、今まで見えなかった学校側の努力を知ることができた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

- 学校のHPでの協議結果の報告、CSだよりの配付、ブログでの紹介、学校運営協議会や学校支援活動を話題とした学校だよりの地域への回覧等により、情報発信ができた。自治会長からは、CSだよりの地域回覧の提案があり、来年度以降に向けて検討していく。
- 学校のHPを活用し、ボランティア希望者が気軽に参加できる流れが定着してきた。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- 委員と教職員との交流の場を意図的に設定し、互いの理解を深めたい。
- 保護者・地域・学校間(保幼こ小中)に学校の様子や学校支援活動について情報を発信したり、保護者や地域からの声を収集したりしてよりよい活動に生かしたい。